

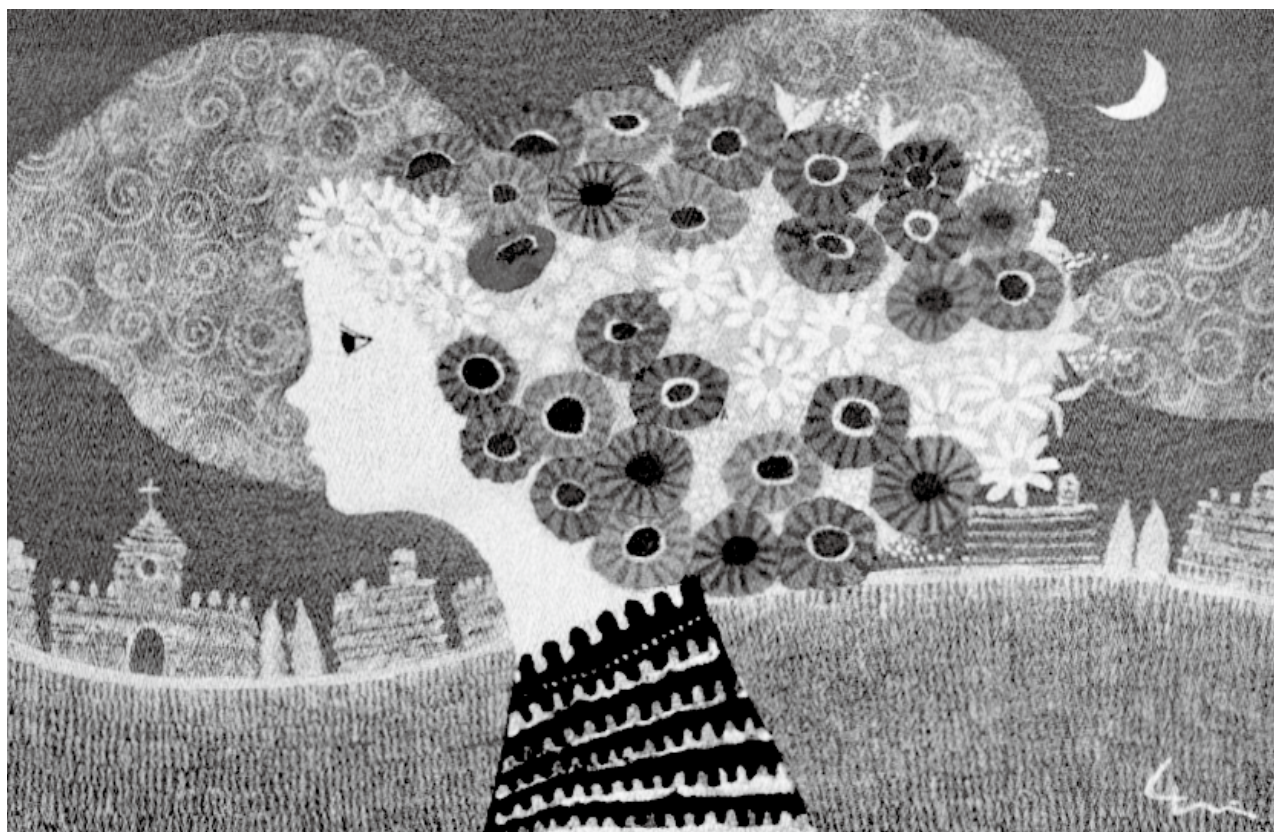
富山大学
医学部同窓会報

2026. 第35号



富山大学 医学部同窓会報

2026. 第35号



C O N T E N T S

4. 理事長挨拶
富山大学医学部同窓会 理事長 富山大学医学部整形外科 教授 川口 善治(医学科 7回生)
5. 同窓会のあゆみ
社会医療法人大西会 千曲中央病院 副院長 宮林 千春(医学科 1回生)
6. 富山大学医学部創立50周年について
富山赤十字病院 小児アレルギーセンター長 富山大学 名誉教授 足立 雄一(医学科 1回生)
- <新任教授就任挨拶・教室案内>
8. 教授就任のご挨拶 病態・病理学講座 高田 尚良
9. 教授就任のご挨拶 富山大学附属病院 高岡・地域小児保健医療学講座 種市 尋宙
10. 教授就任のご挨拶 脳神経内科 山下 徹
11. 教授就任のご挨拶 附属病院臨床研究開発推進センター 五月女 さき子
12. 教授就任のご挨拶 公衆衛生学講座 吉岡 英治
13. 教授就任の御挨拶 一富山大学の“シン・呼吸器外科”教授として—
富山大学呼吸器外科学教授 土谷 智史
- <教授就任特別寄稿>
14. 公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター 漢方医学講座 田原 英一(医学科 10回生)
15. 東邦大学医療センター大橋病院外科教授 長田 拓哉(医学科 10回生)
16. 令和7年度 ちゃべカフェin看護学科の活動報告
看護学科担当理事 高倉 恭子・中堀 伸枝
18. 母校と仲間をもっと身近につなげる！医学部同窓会ホームページのご案内
母性看護学 准教授 二川 香里(看護学科 3回生)
20. 同窓会便り (医学科3期生) 金森 昌彦(医学科 3回生)
21. 同期会報告 富山大学附属病院 腫瘍内科・緩和ケア内科 林 龍二(医学科 10回生)
22. 第22回関東圏富山大学医学部研究会を開催して
社会医療法人社団三思会 東名厚木病院 消化器外科 田澤 賢一(医学科 12回生)
24. 米国でacademic surgeonを目指して 横山 将也(医学科 30回生)
26. 親睦会報告 医学科4M 山村 知子
28. 同窓会のSNS活動について 医学部看護学科3年 西野 耀史
-

29. 第18回富山大学ホームカミングデー・プログラム

30. <卒業生からのメッセージ>

社会医療法人大西会 千曲中央病院 副院長 宮林 千春(医学科 1回生)

富山大学保健管理センター 石木 学(医学科 11回生)

黒部市民病院 整形外科 堀 岳史(医学科 21回生)

福井県立病院 看護部 西沖 彩希(看護学科 24回生)

<退官寄稿>

32. 定年退職にあたり 分子神経科学講座 教授 森 寿

33. 定年退職にあたって 統合神経科学講座・教授 田村 了以

34. 退官に寄せて～富山県で働く医師育成の一翼を担って～
富山大学附属病院 地域医療総合支援学講座 峯村 正実(医学科 5回生)

35. 退官に当たって 成人看護学 安田 智美

36. 令和7年度第44回富山大学医学部同窓会総会 議事録

38. 富山大学医学部同窓会会則

42. 令和7年度富山大学附属病院関連病院長懇談会理事会議事要旨

44. 令和7年度富山大学附属病院関連病院長懇談会総会議事要旨

46. 職掌分担・評議員一覧

48. 2025年 富山大学医学部人事消息

50. 令和6(2024)年 富山大学医学部同窓会 会計報告

52. 令和6年行事報告・令和7年行事・令和8年行事予定

53. 編集後記

54. 会計からのお知らせ

表紙 ロウケツ染 加藤 千代

染色工芸家。太平洋美術展・新人賞(1982年)、松吉賞(1984年)、太平洋美術会賞(1998年)受賞。各地工芸画廊をはじめ、日本橋高島屋(東京)、現代工芸藤野屋(栃木県佐野市)などで個展を開催している。また、1994年とちぎの美術女流作家100人展にも選ばれる。1999年銀座松屋にて個展を開く。いずれも好評を博す。栃木[蔵の街]音楽祭協力委員として地域文化活動にも貢献。縁あって本同窓会誌の表紙絵を1997年より依頼している。栃木県岩舟町在住。



理事長挨拶

富山大学医学部同窓会 理事長

富山大学医学部整形外科 教授 川口 善治 (医学科 7回生)

富山大学医学部同窓会の皆様には、日頃より同窓会活動へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。このたび理事長を務めさせていただいております、富山大学医学部整形外科の川口善治です。

現在、富山大学医学部が直面している大きなテーマは、「最先端の研究の推進」と「地域に根ざした医療人の育成」です。「最先端の研究の推進」は、富山大学が中心となり世界へ発信していく重要な使命です。伝統ある和漢薬研究や脳研究に加え、近年では肝胆膵領域の臨床研究など、多方面で質の高い成果が発信されています。

一方で、卒業生である私たちは、富山県内の病院や診療所、さらには県外・全国各地において、それぞれの立場から医療に携わってきました。特に富山県内においては、多くの同窓生が地域医療の最前線を支え、住民の皆さんの健康と生活を守り続けてきたことを、私は誇りに感じています。

ご承知のとおり、富山県では高齢化や人口減少が進み、医療現場は決して容易な状況ではありません。医師の偏在、診療体制の維持、そして若手医師の育成など、課題は山積しています。こうした時代だからこそ、同じ富山大学医学部を学び舎とした仲間同士が、世代や立場を越えてつながり、支え合うことの意義は、これまで以上に大きくなっているのではないのでしょうか。

私は、同窓会は単なる懇親の場ではなく、「困ったときに顔が浮かぶ仲間がいる」関係を育む場でありたいと考えています。若い先生方が富山で安心して働き、学び続けられる環境を整えること、地域医療に携わる同窓生同士が経験や情報を共有できる場をつくること、そして県外で活躍する同窓生の知恵や経験を富山の医療に還元していくこと——これらに、同窓会として積極的に取り組んでいきたいと思えます。学生会員の皆さんが同窓生とともに交流の場に参加してくれていることも、大変心強く感じています。

諸先輩方が築いてこられた同窓会の伝統を大切にしながら、時代に即した形で、少しずつ前へ進んでいきたいと考えています。同窓会は、会員一人ひとりの参加によって成り立っています。どうか気軽に関わっていただき、富山の医療を支える輪を、皆さんと一緒に広げていければ幸いです。

今後とも、富山大学医学部同窓会への変わらぬご支援とご協力を、何卒よろしく願い申し上げます。



同窓会のあゆみ

社会医療法人大西会 千曲中央病院 副院長
宮林 千春 (医学科 1回生)

【同窓会発足の経緯】

一期生が入学した昭和51年（1976年）春には、同窓会発起人の医学部教授達の好意により、卒業後の同窓会活動を前提とした仮運営がすでに始まっており、学生時代から各種活動に対する援助や指導をいただいております。

卒業を半年後に控えた昭和56年（1981年）7月13日、一期生が発起人代表の川崎教授（生理学）、小泉教授（病理学）を囲み、同窓会発足に関する話し合いが行われました。席上、仮運営されていた同窓会を、自分達同窓生の手で正式に運営していこうという意見が出され、一期生はもちろん、二期、三期、四期生の諸君にも参加・協力を呼びかけ、具体的な準備会の運営と会則の原案検討が始まりました。

同年9月から12月までの間に7回の検討会を重ね、歴史ある富山大学薬窓会をはじめ他学の学部同窓会資料と比較検討し、修正・訂正を繰り返しながら、運営方法と会則の原案を完成させました。

翌昭和57年（1982年）1月、卒業試験のさなかに会則原案を提出し、役員選出、仮承認を経て、3月20日の卒業式直後に同窓会発足式を行いました。これが第1回同窓会総会に相当します。

以降、正副会長、理事長、理事、評議員には同窓生から選出された正会員が着任し、会則に基づいて活動が続けられています。

【会費徴収と資金管理】

前述の通り一期生入学時には、同窓会発起人の教授達の好意で仮運営が始まっており、卒業後の同窓会活動を前提とした会費徴収が行われました。昭和56年（1981年）7月13日の話し合いの際には、会計（金銭管理）および名簿の引き継ぎも行われ、収支決算報告書が添付されておりました。

第2回同窓会総会（昭和59年（1984年）2月19日）では、昭和59年度予算案、名簿作成状況、学生援助金、新役員承認、会則の慶弔細則承認などが議題となり、同窓会活動が本格化していきました。

【未来への展望】

令和3年（2021年）9月21日には第40回同窓会総会が開催されました。これが40周年に相当するものであり、50周年は令和13年（2031年）を迎えることとなります。この節目に向けて、同窓会としても記念事業や教育支援など、より一層の活動が求められることでしょう。そのためにも、今この時点での会費納入が極めて重要です。現在の同窓会活動は、過去の会費の積み重ねによって支えられています。そして、未来の同窓会活動は、今の私たちの支援によって築かれていくのです。

重ねてのお願いです。どうか、会員の皆様におかれましては、この同窓会の歩みと意義をご理解いただき、会費納入という形で資金的支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。皆様のご協力が、富山大学医学部同窓会の未来を照らす灯となることを、一期生として切に願っております。



富山大学医学部創立50周年について

富山赤十字病院 小児アレルギーセンター長
富山大学 名誉教授 足立 雄一（医学科 1回生）

2024年11月に富山大学医学部創立50周年記念式典が盛大に開催されました。式典では、会長の足立が祝辞を述べると共に50周年を記念して医学部に設置されたシミュレーションセンターへの同窓会からの寄付金を贈呈しました。また、川口理事長が「医学部50年のあゆみ」についてスライドを交えて説明され、富山県医師会長の村上美也子先生（2期生）が「地域医療の発展を願って」と題して記念講演をされました。その後の祝賀会では、懐かしい初代教授の先生方をはじめ学内外の医学部関係者が多数出席して、賑やかに50周年をお祝いしました。その時の模様は同窓会のホームページに載っていますので、ぜひご覧ください。その後立派な記念誌も発刊され、全文が医学部同窓会のホームページからダウンロードできます。そこに同窓会会長として寄稿した文章を以下に転載します。本同窓会の設立は1期生が卒業した1982年春ですので、こちらもうすぐ50周年を迎えます。今後とも、同窓会活動へのご協力とご支援をよろしく申し上げます。

富山大学医学部創立50周年にあたり

富山大学医学部同窓会会長 足立 雄一

医学部創立50周年、おめでとうございます。同窓会会員を代表して心からお祝い申し上げます。

我が医学部は1975年に富山医科薬科大学医学部としてスタートしました。当時は政府が打ち出した「一県一医大構想」によって新設医学部が各地に続々と誕生しましたが、その多くは単科の医科大学か既存の国立大学内での新設という形をとっていましたが、富山では江戸時代から連綿と続く伝統ある薬業につながる薬学と医学の融合を目指すという独自の理念のもと、富山大学から薬学部を移管して富山医科薬科大学という当時としては画期的な大学としてその一歩を踏み出しました。また、当時の富山大学薬学部は和漢薬研究所を中心に和漢薬に関する先進的な研究を行っていま

したので、「東西医学の融合」を目指して和漢薬研究所も移管し、さらに当時の国立大学病院としては珍しい和漢診療室が附属病院開院と共に開設され、学部では開学当初より和漢薬や和漢診療に関する講義が組み込まれていました。このような独自の理念に基づいて大学の基礎を築いた当時の文部省や富山県の関係者の皆様、開学に向けて全国から富山に集った当時の教職員の皆様には、並々ならぬご苦労があったことと拝察します。その後、1993年には北陸初の看護系4年制学科である看護学科が医学部に新設され、杉谷キャンパスは医療人育成ならびに医薬学研究の拠点としてさらに充実していきました。そして、2005年に3大学が統合されて現在の富山大学という大きな組織の中に組み込まれました。「富山医薬大」という長年親しんできた通称が使えなくなくなって残念に思っている同窓生も多くいると思いますが、昨今の医療や医学研究には理工系や人文系との融合が不可欠となってきた状況を考えれば、この統合によって医学部がさらに大きく飛躍できるものと期待しています。

さて、富山大学医学部は1976年4月に県立富山中部高校の木造の旧校舎で産声をあげ、医学科では1982年に、そして看護学科では1997年にそれぞれの一期生が卒業して以来、今まですでに6000名を超える卒業生を輩出しています。開学当初は地方の新設医大としてあまり名前も知られておらず、その頃の卒業生はいろいろ苦労したと聞いています。その後、多くの卒業生が富山や北陸さらには日本全国や海外において、学生時代に杉谷キャンパスで学んだり経験したことを糧に各分野で活躍することで、今では富山大学医学部の名前は全国そして国際的に広く知られるようになりました。創立50周年にあたって「もはや新設医大ではない」と明言できるほどに成長したと思います。今後も、建学の理念である「里仁為美」に沿って「さすが富山大学出身」と言われるような優秀な人材の輩出をお願いしたいと思います。

医学部同窓会の会員数は今では4500名余りとなり、富山医科薬科大学としての開学当初より「会員相互の親睦を図り、母校の発展並びに医学の進歩に寄与すること」を目的として種々の活動を行なっています。その一環として、キャンパス祭、謝恩会、学生と教員との定期交流会、病院コンサートなどキャンパスや病院内のいろいろなイベントへの支援を定期的に行うとともに、高額の援助としては2014年に完成した研究棟「医薬イノベーションセンター」の建設用資金の相当な分を寄贈しています。この50周年記念事業でも、医学部が進めている「シミュレーションセンター整備」に対して同窓会として会員への募金活動を行うとともに、今回もまとまった額を寄贈する予定です。医学部同窓会はこれからも本学医学部をしっかりサポートしていきます。我々同窓生がさらに誇れる大学に発展されることを祈念して、同窓会からのお祝いの言葉に代えさせていただきます。